

平成30年度 第2回仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議

1. 開催日時 平成31年3月18日(月) 18時30分

2. 開催場所 仙台市急患センター 5階 研修室

3. 出席委員(12名 50音順 敬称略)

- | | | |
|----|-------|---|
| 委員 | 飯島 秀弥 | 公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院
呼吸器内科 主任部長 |
| 委員 | 賀来 満夫 | 東北大学病院医学系研究科 総合感染症学分野
感染制御・検査診断学分野 教授 |
| 委員 | 川村 和久 | 一般社団法人 仙台市医師会 理事 |
| 委員 | 斎藤 仁子 | 公益社団法人 宮城県看護協会 常任理事 |
| 委員 | 佐藤 修子 | 仙台市立八乙女中学校 校長 |
| 委員 | 関 雅文 | 東北医科薬科大学医学部 教授
東北北医科薬科大学病院(感染症内科・感染制御部)
診療科長・部長 |
| 委員 | 高橋 将喜 | 一般社団法人 仙台市薬剤師会 副会長 |
| 委員 | 永井 幸夫 | 一般社団法人 仙台市医師会 会長 |
| 委員 | 西村 秀一 | 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター
臨床研究部 ウイルス疾患研究室長 |
| 委員 | 八田 益充 | 仙台市立病院 診察部感染症内科部長 感染症対策室長 |
| 委員 | 花岡 弘二 | 一般社団法人 仙台歯科医師会 常務理事 |
| 委員 | 三木 祐 | 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター
呼吸器内科部長 感染対策室長 |

4. 事務局

- | | |
|-------|----------------------|
| 船山 明夫 | 仙台市健康福祉局長 |
| 下川 寛子 | 仙台市健康福祉局次長(保健所長事務取扱) |
| 石澤 健 | 仙台市健康福祉局保健衛生部長 |
| 相原 健二 | 仙台市健康福祉局衛生研究所長 |
| 原 孝行 | 仙台市危機管理室危機管理課長 |
| 若生 明智 | 仙台市危機管理室危機対策調整担当課長 |
| 西崎 文雄 | 仙台市教育局健康教育課長 |
| 吉城 宗隆 | 仙台市健康福祉局健康安全課長 |
| 勝見 正道 | 仙台市健康福祉局衛生研究所微生物課長 |
| 鈴木 花津 | 仙台市健康福祉局健康安全課感染症対策係長 |

5. 内容

1) 開会

2) 会長挨拶

先程案内があったように、この3月で退職いたしますのでこの会が最後となります。2009年のパンデミックから始まり印象深く、私の原点のような会議で、ご出席の皆様に変にお世話になりました。永井先生に色々ご支援いただきまして、この会は素晴らしい会だと思います。最後になりますが、よろしくお願ひします。

4) 議題

・議事録署名人の指名

佐藤 委員を指名 (了承)

・協議

以下のとおり

発言者	議事
【議題】 事務局 (古城課長)	(1) 新型インフルエンザ等対策医療機関専門部会について(報告) 【資料1】 1 専門部会の概要 仙台市では新型インフルエンザ対策における医療体制の基本方針につきまして、平成26年11月に「仙台市新型インフルエンザ等対策行動計画」を策定いたしました。そのうち医療体制につきましては、海外発生期から県内発生早期までの医療体制の確保、あるいは県内感染期に備えた医療の確保といたしまして、資料にある対策を講じることとしていまして、それらの検討・準備が必要となるところです。 昨年、東北大学病院が第一種感染症指定医療機関の指定を受けたことや、前回の会議でも説明いたしましたとおり、仙台医療センター・仙台オープン病院・仙台厚生病院・仙台市立病院・仙台赤十字病院・仙台徳洲会病院・東北医科薬科大学病院・東北労災病院の8病院から、帰国者・接触者外来開設医療機関としてご協力をいただけることになりましたことから、個別専門的な内容を討議・検討するため、本会議の専門部会として、仙台市新型インフルエンザ等対策医療機関専門部会を設置し、賀来先生を専門部会長として、2月5日に一回目の会議を開催したところです。 2 専門部会の目的 (1) 未発生期からの新型インフルエンザに関する情報共有及び連絡体制の構築 (2) 海外発生期から県内発生早期における外来医療・入院医療受入に関する手順の作成 (3) 県内感染期以降の外来・入院医療体制に関する協議検討 3 専門部会での検討事項・活動内容(案) ・平時及び発生時の情報共有体制に関する検討 ・帰国者・接触者外来開設や受診の手順に関して必要な事項の検討

- ・県内感染期以降の外来・入院医療体制に関する検討
- ・実地訓練の実施
 - 情報伝達机上訓練、帰国者・接触者外来開設及び受診訓練、感染症指定医療機関等入院受入訓練など
- ・新型インフルエンザに関する研修会の実施

【資料2】帰国者・接触者相談・外来開設に関する検討課題

1 課題検討事項

(1) 相談体制

- ・帰国者・接触者相談と一般相談（コールセンター）の振り分け
- ・発生段階ごとの相談受付時間及び体制等

(2) 連絡体制

- ・帰国者・接触者相談センターと帰国者・接触者外来医療機関の連絡体制

(3) 検査体制

- ・外来医療機関での検体採取等

(4) 外来受入体制

- ・患者の受診方法（交通手段等）
- ・外来患者の受診調整（どの医療機関に）
- ・病院ごとの受診手順、受診経路、診察場所等
- ・帰国者・接触者外来開設に必要な資器材、技術的サポート等

(5) 感染症指定医療機関等への入院勧告

- ・患者受入に関する保健所、外来医療機関、指定医療機関等との連絡体制
- ・保健所による患者の搬送及び引き継ぎ

(6) その他

- ・医療機関相談体制「(仮称) 感染制御地域支援チーム」の検討

2 当面のスケジュール

(1) 年1回程度の会議の開催

(2) 帰国者・接触者外来受診及び感染症指定医療機関等入院手順等の検討

(3) 保健所と各医療機関との患者受入連携訓練の実施

(4) 訓練結果に基づく手順の見直し

2018年から2019年にかけて検討をすすめ、マニュアルを作成予定です。それを基に2020年以降、少なくとも年一回は保健所と各医療機関との患者受け入れ連携訓練を実施し、その訓練結果等に基づき随時マニュアル等の見直しを行っていきたいと考えています。なお、2月5日に開催した第1回会議では、県内発生早期・県内感染移行期の判断基準をつくっておいた方がよいのではないか、県内外の発生状況について関係病院でリアルタイムに情報共有できるようにしてはどうか、患者受診際の流れについて分かりやすいフローをつくってほしい、などの意見が出されており、今後引き続き検討していく予定です。

<p>会長</p>	<p>報告にあったように、2月5日に仙台市新型インフルエンザ対策医療機関専門部会が設置されることになりました。2009年パンデミックの時には、永井先生を中心とした医師会の先生方のご協力により仙台方式で開業医の先生方に診ていただき乗り切りました。当時から、病院の協力体制の在り方を考えなくてはと思いましたが、今回、仙台市内8医療機関に帰国者・接触者外来開設医療機関としてご協力いただけることになりました。検討課題は、まだまだたくさんあります。判断基準をどう決定するのか、リアルタイムの情報共有が実際できるのか、患者さんの受診について分かりやすいフローがあったほうがよいのではないかなど様々なご意見が出ました。メディカル・ネットワーク会議の中で意見が出ましたら、課題は多いのですが、これから時間をかけて意見を伺いたいと思います。</p>
<p>西村委員</p>	<p>新型インフルエンザとなった時、鳥インフルエンザくらいで止まっている分ならうまくいきますが、それより先のことをこれから詰めていってほしいと思います。ここまでは国の方針でほとんどできあがっていることで、それを踏襲しています。これは国の方式そのもので、国と一緒にあれば議論を飛ばして国に準ずる、で良いと思います。これから先、海外で出てきて日本に入ってきてアウトブレイクが起きた時、ひとつの病院で収められるのか。分かった時点で新型インフルエンザになってしまっていて、例えば韓国でMERSが発生したようなことが、日本の病院で新型インフルエンザが起こった時に、本当にうまくいくのか、この部分を考えるのが我々の仕事と考えています。国でやってくれる部分は良い。当院も通常のインフルエンザでもいろいろあったので、新型では、ほとんど対応は無理だと思います。季節性を制することができなければ新型を制することはできないので、そこを考えた方が良いでしょう。インフルエンザはすごく大変だと思います。病院内で起きる分はまだ良いですが、病院の外で起きる可能性があって、その時にどうするのでしょうか。MERSの時は病院の中で収まって外には出ませんでした。それよりもっとスピルオーバーが大きい病気と思った方が良いでしょう。新型インフルエンザと判明するまで時間がかかるので、仙台で始まったらタイムラグがあります。しかし、中国と仙台の間で毎日飛行機が飛んでいて、いつどこに新型インフルエンザが入ってきてもおかしくない話です。</p>
<p>会長</p>	<p>今回8病院にご参加いただくのは画期的と思っています。仙台市内の中心的な病院で情報共有することになります。色々な病院で対応しきれなくなることもあるでしょう。前回の話し合いであったが、インフルエンザだけではないので、それ以外の医療体制をどう維持しながらやっていくのか。専門家、メディカル・ネットワーク会議、感染症以外も大きな課題になると思います。それを踏まえて8病院の先生方、医師会の先生方との連携が非常に重要になってくると思っています。医療機関に支援チームという形で、また、ひとつの病院で押さえきれない、それに対してどのように仙台市全体で医療体制のバックアップをとるのか、非常に重要なシステム作りとなります。仙台市特有のものを、お集まりの皆様方の支援をいただきながら作っていかねばいけないと思います。</p>

西村委員	リスクコミュニケーションが話されていません。仙台市で初めて発生した時に、市民にどう説明するのか今後考えていく必要があるのではないかと思います。
会長	ありがとうございます。他にございませんか？
飯島委員	検討課題がいっぱいあります。次の開催はいつでしょうか？年1程度の開催で間に合うのでしょうか。始めの体制づくりが大事で、体制ができれば年1回でよいが、これでできるのか疑問に感じました。始めのうちは体制の早い確保が必要と考えます。
事務局 (下川次長)	なかなかこの中で何回とは踏み込めないところがあったので定例的な年1回としていますが、なるべく行政の方のワーキングを早めに立ち上げて、進行に沿って途中でもご相談やご意見を伺い進めさせていただけると良いと思っているので、次年度どうぞよろしく願いいたします。
会長	この組織は参考資料2にあるように第1種指定病床・第2種指定病床と医師会と様々な業種の連携、情報をどう共有するのか、今何が起きているかをリアルタイムでわかる方法をどうつくっていくのが重要と思います。次の会では情報共有、リスクコミュニケーションのやり方等が重要になってくると考えます。今日は、この設置部会ができたということで、2月5日に1回目を開いて色々検討課題があるということを確認しました。他の市で、このように医療機関が集まることはありますか？
事務局 (下川次長)	政令市の中では病院を選出されているところが、どのようなかたちで会を持たれているかは…。帰国者・接触者外来の協力医療機関を選出している政令市はありますが、体制は分かりません。概ね半分位の政令市で病院の選出をされており。例えば横浜市では新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会で8病院で連絡会をお持ちになっています。名古屋市は新型インフルエンザ等対策会、神戸市は病院連絡会を実施しています。病院が決まっている中で、連絡会を開いているとアンケートで回答したのは今のような所になります。
会長	全国でも少ないと思います。全国の情報いただきながら、新しい専門部会にも情報をいただきたい。
事務局 (下川次長)	今後、そういった情報も収集してまいりたいと考えています。
西村委員	訓練の実施の中に、どういうものを想定しているか。新形インフルエンザの訓練はしてきましたがそれと同じことをするのか。想定の問題で、どういう想定で訓練するのか。プロパビリティが色々ありますが、ケース1・ケース2…その中のどれをするかの話です。多分、やりやすいことを考えていると思いますが、では、やりにくいことは何かというところをディスカッションし、プロパビリティが高いところをどうするのか、それが含められないと役に立ちません。そうすると年1回でいいのかの話になります。想定ケースを色々考えた場合に、年1回のペースで適切な訓練になっているのか、心配されます。訓練と聞いて、新型インフルエンザ発生時のような従事者の装備等に重きを置いた、形式ばった内容になりかねません。それはあまり実効性がないと思われるので、本当に流行に入った時にどうするの

	か、連絡体制をどうするのかなどのシミュレーションを行うような内容にしてください。会で色々なケースを考えてもらい、どれをするのかということです。
会長	どのようなシナリオで訓練するかも含めて、ぜひ部会で考えていただきたいと思います。
川村委員	海外発生期から早期で広まっていく時間が、どれくらいかかるかは非常に難しい。前回の新型インフルエンザでも、あっという間に広がりました。そういう場合、病院の先生方は診断を受けてからですが、医師会員は、診断を受ける前に患者さんを診てしまいます。一番重要なのは、いかにリアルタイムの情報が流れてくるか。私は仙台市の衛研と感染研の情報を利用していますが、どんなに頑張っても一週間以上かかっています。流行の状況では一週間半で手遅れになる可能性があるので、発生したものを、仙台市の中でリアルタイムに情報を共有できるシステムが、医師会としても重要な要素と思います。
会長	わかりました。他にもあると思いますが時間が押しています。また、部会の方で色々議論をお願いしたいと考えております。その他ありませんか。よろしいでしょうか。ここで議事を終了します。事務局に進行をお返しします。
事務局 (鈴木係長)	賀来先生、ここまでの進行ありがとうございました。委員の皆様、ご議論お疲れ様でした。以上をもちまして平成30年度第2回仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議を閉会します。委員の皆様、本当にありがとうございました。

本議事録について、平成31年3月18日に開催した仙台市感染症メディカル・ネットワーク会議の議事内容と相違ないことを確認しました。

令和元年6月27日

議事録署名 佐藤 修子 